【行革甲子園2014】

取組市町名	宇和島市	所属	危機管理課

▽取組事例名	コミュニティＦＭを活用した防災放送	▽取組期間	平成２５年度～（継続中）

▽取組概要

コミュニティＦＭ放送「ＦＭがいや」と地域（自治会等）の屋外放送施設等を活用した防災情報の伝達システムの構築及び防災ラジオの全戸配布

▽取組みの背景

宇和島市では、世界基準の田舎都市を達成するために、100以上の具体的な課題を解決する必要があるとして「NEXT（ネクスト）100」を目標に掲げ市政運営を進めています。その一つとして、平成24年3月にコミュニティFM放送局「FMがいや」を開局しました。

また、宇和島市は平成17年に旧宇和島市、吉田町、三間町、津島町が合併して発足していますが、旧宇和島市には防災行政無線等による住民への放送設備がなく、旧3町にはアナログ防災行政無線の更新の課題がありました。

▽取組みの狙い・具体的内容

（取組みの狙い）

防災情報等を屋外・屋内の住民へ確実に伝えます。

地域で利用されている施設を活用する事により、イニシャルコストとランニングコスト及び維持管理の効率化が図られます。

（具体的内容）

【地域の放送設備の活用】５７施設

自治会等が所有・維持管理している地域の屋外放送設備にコミュニティＦＭ放送を利用した連携放送設備を設置する事により、市や国等からの防災情報等の情報を一斉放送します。

【長距離スピーカーの設置】７箇所（１５基）

地域の放送設備が無い市街地には、特殊な長距離スピーカーを設置することにより、少ない設備により広範囲の屋外に一斉放送を行います。

【防災ラジオの配布】H25：25,600台（旧宇和島）、H26：14,400台（旧吉田・三間・津島）

全世帯へ防災ラジオを配布して、屋内の住民への周知を行います。この防災ラジオは、コミュニティＦＭ放送により緊急時等には自動で起動して放送を受信することができます。

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）

地域の放送設備は市の管理施設ではないので、設置場所等の情報が無かった。
電気代等のランニングコストの負担を自治会等にお願いする必要があった。
また、設置する設備の設置場所や既存施設の老朽化に故障等の問題もあった。

☆工夫した点

【地域の放送設備の活用】
地域の既存の放送設備に出来るだけ手を加えること無く設備を設置するととした。
新たに設置した機器の誤操作による緊急情報等が放送出来なくなる事を防いだ。

▽取組みの効果

従来、旧宇和島市には行政からの一斉放送する設備が無かった為、今回の放送設備の設置により防災意識の向上が図られたと思われる。
試験放送等による騒音の苦情を心配していたが、苦情は全く無かった。また、３月１４日深夜の地震発生時には、整備途中の一部の施設で深夜に自動的に地震速報が放送されたが、それに対する苦情は無く、調整中により放送されなかった地域からの連絡があった。
また、地域所有の放送設備の老朽化や設置場所の見直し等、地域住民への放送設備の重要性、維持管理や改修・改善に対するの意識の向上が図られたと思われる。

▽住民（職員）の反応・評価

防災ラジオについては、平成２５年度末で旧宇和島市の配布率が５０％程度となっており、住民への周知が不足していると思われる。

☆取組み効果を踏まえたフォローアップ

今年度から、旧３町への防災ラジオの配布を進めながら、旧宇和島市地域への周知・配布率の向上を進める必要がある。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

旧３町の屋外放送設備の整備及び避難所等からの双方向の情報伝達システムの構築を検討している。